

人とのつながりつて、本当に貴重。 そういう思いを伝えたい(太田)

んな活動も、行ってみようと思わせる情報発信を考えないといけないと思います。『まちのわ』でそんな情報発信ができて、いろんな立場や考え方の人に、伝えたいですね。

『まちのわ』の充実が
地域活動のパワーアップに
つながるように

太田：足を運んで得られる情報や人とのつながりつて、本当に貴重ですよ。子育て支援やホットサポーターの活動を始めたことで、人に対する見方が変わりました。それが自分の活力源にもなっているから、『まちのわ』で、そうい

う思いを伝えたいです。

前淵：そういうお気持ちですが、特に、地区活動にあまり参加できない30代や40代の方に伝わるといいなと思っているんですよ。

芥川：一般的な行政の広報誌だと、いつどこで何をやります、しか載っていません。『まちのわ』では、絵や写真をたくさん使って、誰がどんな思いでどんな活動をしているのかを伝えられますよ。

浅田：動画も効果的です。ネットに乗せれば、もし子どもたちが故郷を離れても、「こんなことやっているんだ」とわかりますから。真辺：小中学校の部活動も取り上げたらどうですか。そうすると、

小中学校の部活動も取り上げて、 親世代にも『まちのわ』を(真辺)

人も気づいてなかったすてきなところを見つけてどんどん発信していきたいですね。

林：私は、『まちのわ』の内容にはテーマが必要だと思います。

次年度からは、子育て、歴史、アートなどのテーマを設けては？ 若者の活動も取り上げれば、若い方も『まちのわ』を知ってくれます。

太田：私は、子育て支援センターなど、身近にある施設をもっと紹介してほしいです。そこを利用する人に向けてだけではなく、支援をしたいと思う人をもっと増やすという意味でも。

真辺：高齢者向けのいきいきサロンは人気があるのですが、もっと参加者が増えるよう、利用者の思いやお手伝いする人の思いを伝えられたらいいですね。

浅田：帯山校区は比較的新しい住宅地なので、古い歴史とかはない



太田恵美子さん



林幸子さん

んです。その分、子どもたちにたくさん思い出をつくらせてやれる取り組みをしています。新しい校区でも、やれることはいっぱいあると伝えたいですね。

前淵：せっかくスタートさせた『まちのわ』です。もっともって地域の皆さんの表情を伝えることで、その思いや地域活動の大切さを発信したいと思います。皆さんの力をお借りしてパワーアップしていきたいですね。



芥川道子さん

30代、40代の親世代が『まちのわ』を手にとってくれるかもしれないんですよ。

前淵：古い歴史や新しいものが混在する多様性が中央区の魅力。その両方を活用してまちづくりをやることは、大変ですがおもしろいと思います。

最後に、皆さんが次年度の『まちのわ』でぜひ取り上げてほしいと思うものがあれば教えてください。芥川：私は転入して間もないので、自分の目が新鮮なうちに、地元の

学生編集委員より

「地域の魅力を伝える冊子に」
熊本県立大学 大塚晴菜

まちのわの取材は、校区の魅力や課題を知る機会となりました。校区自治協会の会長さんたちのお話からは、校区のみなさんが、歴史や芸能などの文化、人々や地域そのものを大切にしていることが強く伝わりました。そして、大切な地域のために、なにができるかを、みんな考え、力をあわせていこうとされているのだと感じました。校区の活動に携わっているのは、高齢の方が多く、地域の元気は、そんなみなさんの元気に左右されるように思います。今後、大学生などの若者が一緒になって取り組めば、校区の可能性は広がっていくのではないのでしょうか。

私も『まちのわ』をきっかけに、いろいろな活動に参加していきたいです。そして、自分のまちをもっと好きになって、その魅力を『まちのわ』で紹介していけたら、と思っています。

次年度からはテーマで 『まちのわ』を盛り上げたい(林)